

# 算命学中庸

## 【初年】1回目

1回目の授業はこのページからです。

授業科目           【宿命と運命】

【初年】1回目【宿命と運命】01

【宿命と運命】 しゆくめいとうんめい

算命学の勉強は、「宿命」「運命」という言葉をつかうようになります。

ふつう私たちが「宿命」とか、「運命」という言葉を会話のなかでつかうときには、「これが私の宿命なのよ……」とか、「これが僕の運命だよ……」とか、このような言い方をするかもしれません。

多くの人たちは、「宿命」そして「運命」という言葉を、同一のものとして、つかっているようです。

「宿命」と「運命」という言葉には、異なる意味合いがあります。ここでは「宿命」と「運命」の<sup>ちが</sup>違いをご理解して頂きたいのです。

算命学では……「宿命」と「運命」をつぎのようにつかかわけています。

「宿命」と「運命」のちがいは：

「宿命」 変えることはできないもの

「運命」 変えることはできるもの

違いはこれだけです

<sup>か</sup>変えることはできないものを「宿命」といいます。

変えることができるものを「運命」といいます。

〔たとえば〕 生れてきたときに〔自分は男〕〔自分は女〕という性別は決まっています。自分の意志で選ぶことはできません。男女の区別を変えることもできません。

どなたでも“男に生れたい”とと思って生れて来てはいません。“女に生れたい”とと思って、生れて来たわけでもないはずです。(あくまでも算命学の考え方です)

女に生まれたのに、男に性別を変えることはできませんから、性別というのは「宿命」です。

## ❖ 性別は宿命

〔男に生れた〕としても、現代の医学によって性転換の手術をして女になった。ということはありません。

しかし、手術によって女性の身体になったとしても……  
本当の女性にはなれません。

男に生れて、女の体をつくったとしても、子供を産めませんから、女性としての模倣もほうをしたに過ぎないわけです。  
本来の性せいを転換したことにはならないはずです。

参考・模倣（似せること。まねること）

**逆の場合もおなじです。**

女性に生まれて、医学の進歩で男性の身体に変えることは可能かも知れませんが、本当の男にはなれません。

「性同一障害」の悩みをかかえる人はおられますけど、男性、あるいは、女性として生まれてきたことを、自分の意志で変えることも、選ぶこともできません。

そういう意味からして、〔生まれながらの男女の性別〕は自分の宿命です。

そのように考えているのです。

## ❖ 時代は宿命

自分が生まれた時代……これも宿命です。

〔どのような時代に生まれてくるのか〕〔どういう時代を生きてゆくのか〕自分で選ぶことも、変えることもできないはずです。(算命学の考え方です。異なる考え方もあるでしょう……)

話として「わたし江戸時代に生まれてみたかった」とか、「もっと先の未来に生まれたい」と、想うことはあるかも知れませんが、それは不可能です。

いったん一旦、その時代に生まれてしまえば、嫌いやでもその時代を生きて行かなければなりません。

生まれてきた時代も、自分の意志で変化させることはできない自分の宿命です。

それが幕末のような混乱の時代であろうと、戦争という破壊の時代であろうと、平和といえる時代であろうと、豊かな時代であってもおなじです。

どのような時代に生まれても……それは自分に与えられた宿命と考えています。

## ❖ 親は宿命

もっとも身近で、親も自分にとっての宿命になります。  
親について考えますと……自分がどのような親のところ  
に生まれてくるのかわかりません。

生まれた<sup>あと</sup>後、親を変えることも選ぶこともできません。  
生まれてきて、物心<sup>ものごころ</sup>がついて気がつくと、この人がお父  
さんで、この人がお母さんです。と決まっています。

生まれた<sup>のち</sup>後にもっと優しいお母さんのほうが良かったと  
か、もっと地位があって、お金持ちのお父さんのところ  
に生まれたかった。そのようにおもっても、それを替える  
ことはできません。

参考・物心〔人の気持ち、人間関係などがわかりはじめる〕

## ❖ 兄弟も宿命

“身近な” という意味では、兄弟も宿命に入ります。

〔たとえば〕一人っ子に生まれたとか、何人もの兄弟がい  
る家庭に生まれて来たとかを、自分で変えることはでき  
ません。兄弟が多い家に生まれたけど、本当は一人っ子  
に生まれたかったのに……とおもっても、それを替える  
ことはできないわけです。

逆に……自分が一人っ子に生まれて、兄弟が欲しかったと思っても、意思や努力で変えることはできません。

〔たとえば〕一人っ子に生まれたら、その人は一生<sup>いっしょうがい</sup>涯、実の兄弟をもつことはできません。一旦、一人っ子<sup>いったん</sup>に生まれてしまうと、自分の意思で選ぶことはできません。このことは宿命です。

#### ❖ 何番目に生まれた……これも宿命

兄弟のなかで、自分は何番目に生れるのかということについて、自分の意思ではどうにもなりません。

〔たとえば〕長男に生まれて来るのか、次男に生まれてくるのか、選ぶことはできません。

自分は長男として生まれたけど、お兄さんや、お姉さんが欲しかった。そう想ってもどうにもなりません。

自分は次男に生まれたけど、本当は長男に生まれたほうがよかった。それも不可能です。

このように「宿命」というのは、生まれた時点、あるいはそれ以前にすでに決まっているものです。

自分の意思や努力では変えることも、選ぶこともできませんから「宿命」です。

⇒ 「運命」を変えることはできます。

いくつかの例<sup>れい</sup>を<sup>あ</sup>挙げます。

## ❖ 結婚は運命

結婚は運命……結婚相手を<sup>か</sup>換えることができます。

一旦結婚してしまおうと、死ぬまでその人と結婚生活を続けなければいけない。とは決まっています。

一旦結婚しても、その結婚は間違いだったとおもえば、離婚することも可能ですし、また別な人と結婚することも可能です。(ここでは宗教的問題は除きます)

あるいは、はじめから結婚しないで、一生独身の人生を歩もうとおもえば、それも可能です。

結婚する、結婚しない、それは自分の意思や努力で<sup>か</sup>変えることはできるわけです。

☞ つぎのような話があります。

「生まれたときから、お嫁さんになる人と、お<sup>むこ</sup>婿さんになる人は、赤い糸で<sup>つな</sup>繋がっていて、決まっている……」  
という言い伝えがあります。

このことを「まったく意味のない話」といえません。

「縁<sup>えん</sup>」として存在<sup>そんざい</sup>する（縁があつてめぐり会う）のですが、『最初から相手が決まっているわけではない』と算命学は考えています。

自分の生き方とか、人生の選択によって、結婚も変化していくわけです。

結婚相手を“選<sup>よ</sup>り取り見<sup>ど</sup>取り”というわけにはいきませんが、ある程度の範囲のなかであれば、自分の意思で換<sup>か</sup>えることはできます。このように変<sup>か</sup>える・換<sup>か</sup>えることができるものを「運命」といいます。

参考・存在〔なにかがあること〕

参考・縁〔人と人とのつづきあい。婚姻の関係〕

## ❖ 仕事は運命

仕事は運命に入ります。

ひとたび一度その会社に入ったら、死ぬまでその会社で働かなければいけないとは決まっています。

〔たとえば〕長男に生まれたとします。

親が商売をやっているならば「長男は親の仕事を継がなければ……」というふうな考え方があります。

しかし、親の仕事が自分に向いていないと思えば、別の



生き方をすることも可能です。

「長男は跡を継がなければいけない……」これは親の側から、そういう希望を求められているだけのことです。

あとつ あとつ  
後継ぎ・跡継ぎを〔する〕〔しない〕自分の意思で換えられるはずです。後継ぎ・後継ぎに関しては4 1 回目の授業を参照ください。

〔たとえば〕坂本龍馬は土佐藩の下士（郷士）という身分の低い家に生まれたわけです。

龍馬は、坂本家の<sup>けいし</sup>継嗣として生まれましたから、その家の<sup>あとつ</sup>跡継ぎです。しかし、龍馬は自分の意思で、土佐藩を脱藩して京へ上り、薩長同盟を締結するなど、歴史に名<sup>きざ</sup>を刻みました。

坂本龍馬は自分で決めた人生に<sup>いのち</sup>命を運びました。

参考・人生〔人がこの世で生きること。人の一生〕

〔たとえば〕会社に入っても、自分にその仕事が合わない……と思うのであれば、会社を移ることも可能です。

あるいは、資格を取って、自分が望む道へ進もうと考えているのであれば、その道を進むことは可能です。

仕事も“<sup>よ</sup>選<sup>ど</sup>り<sup>み</sup>取<sup>ど</sup>り見<sup>ど</sup>り”というふうにはいかないでし

ようけど、ある程度の範囲のなかであれば、自分の意思で選ぶことも、転職することも出来るはずです。

それゆえに、仕事は運命です。

※ 転職は注意が必要です。天中殺の授業を参照ください。

### ❖ どこで暮らす

〔たとえば〕東京で生まれたから、一生を東京で生きて行かなければいけない。とは決まっています。

東京で生まれても、どこか地方で暮らしてみたいと想<sup>おも</sup>うのであれば、それも可能です。

田舎に生まれたからといって、一生に渡って田舎に住まなければいけない。とは決まっています。

外国で暮らしたいのであれば、それも可能です。

それを実際に〔する〕〔しない〕それは自由です。

自分の努力や意思で変えられます。これは運命です。

### ❖ だれと暮らす

これも運命です。

先ほど「生まれてくるときに、親を選ぶことはできません。どういう親のところに生まれて来るのかも、自分の

意思ではどうすることもできない」といったわけです。  
さて……生まれた<sup>あと</sup>後に、自分の親と一緒に暮らして行くのか、一緒に暮らさないのか、それを選ぶことはできます。あるいは、親元の近くで暮す、親元から離れて暮す、それも自分で選ぶことができます。

結婚しました「結婚して夫婦になったから、一緒に住まなければいけない」とは、決まっています。

結婚して子供が生まれました。その子供を早めに全寮制の学校に入れるなり、どこかに下宿させるなり、親元から離して育てる。ということもあるわけです。

子供の宿命、親の宿命によっては、そのほうがよい場合もあります。

このように、親・兄弟・夫婦だからといって、一緒に住まなければいけない。とは決まっています。

それゆえに運命です。

☞ 実際に占いをするときには、「宿命」と「運命」の意味合いを理解し、きちんと分けて占います。宿命と運命をゴチャ混ぜにすると、占いのこたえが違ってしまふのです。

「宿命」と「運命」はちがう……ということを頭のなかに  
おさ  
収めてください。

<sup>しゆくめい</sup>  
「宿命を変えることはできない」

<sup>うんめい</sup>  
「運命は変えることができる」

ということだけ、おぼえておけば大丈夫です。

㊦ 「宿命」 “命に宿るもの” と書きます。

この世に“生”をうけたときに、『最初から、命に宿っているもの』という意味で、「宿命」という言葉になったそうです。

㊦ 「運命」 “命に運ばれるもの” と書きます。

最初から宿っているのではないのです。

『命が宿ったあとに運ばれてくるもの』として、「運命」という言葉になったそうです。

本来は、このように「宿命」と「運命」は、まったく異なる意味合いをもつ言葉です。

そのことを知っておいてください。

⇒ 個人の「宿命」はどうしてわかるのか……？

占いにおいては、個人の生年月日を『干支』という記号で、書きあらわしたものを「宿命」といいます。

「宿命」とは、生年月日を「干支」に変換したものです。

「干支」は、個人の生年月日を昔の中国の暦こよみに照らし合わせて、「干」と（支）という記号に変えたものです。

「干支歴かんしれき」という暦こよみをつかいます。

「干」⇒ 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

（支）⇒ 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

この「干」と（支）を組み合わせて、「干支」といいます。

干支は、「甲子」「乙丑」「丙寅」「丁卯」「戊辰」「己巳」「庚午」「辛未」

「壬申」「癸酉」、そして「甲戌」「乙亥」「丙子」「丁丑」と続きます。

このように干支を60個集めた表を『六十干支表』とよび、それぞれの干支に番号が付けられています。1番は「甲子1」、2番「乙丑2」

そして、最後の60番目の干支は「癸亥60」となっています。

「六十干支表」を見るとわかります。つぎのページの表です。

⇒ 六十干支を表わした（ろくじゅうかんしひょう）です。

### 六十干支表

壬	子	49	庚	子	37	戊	子	25	丙	子	13	甲	子	1
癸	丑	50	辛	丑	38	己	丑	26	丁	丑	14	乙	丑	2
甲	寅	51	壬	寅	39	庚	寅	27	戊	寅	15	丙	寅	3
乙	卯	52	癸	卯	40	辛	卯	28	己	卯	16	丁	卯	4
丙	辰	53	甲	辰	41	壬	辰	29	庚	辰	17	戊	辰	5
丁	巳	54	乙	巳	42	癸	巳	30	辛	巳	18	己	巳	6
戊	午	55	丙	午	43	甲	午	31	壬	午	19	庚	午	7
己	未	56	丁	未	44	乙	未	32	癸	未	20	辛	未	8
庚	申	57	戊	申	45	丙	申	33	甲	申	21	壬	申	9
辛	酉	58	己	酉	46	丁	酉	34	乙	酉	22	癸	酉	10
壬	戌	59	庚	戌	47	戊	戌	35	丙	戌	23	甲	戌	11
癸	亥	60	辛	亥	48	己	亥	36	丁	亥	24	乙	亥	12
水 行		金 行		土 行		火 行		木 行						

六十干支については【初年】 9 回目【六十干支】でまなびます。

☞ 占いの世界で「宿命」という言葉をつかったときは、その人の生年月日を、「干支」という記号に置き換えた

「年干支」<sup>ねんかんし</sup>「月干支」<sup>げっかんし</sup>「日干支」<sup>にっかんし</sup>のことです。

つまり『生年月日』を「干支」という記号に置き換えたものを、「宿命」<sup>しゅくめい</sup>とよぶことが多いのです。

☞ 算命学を勉強すると、占いの技法をつかうようになります。鑑定の場合は、お客様が知りたいこと（もとのぞむこと）があるわけです。そのリクエスト（要求）に応じて、占いのこたえを出すことになります。

占うときは「占いの対象となる人物の生年月日」が必要です。その生年月日を「干支」<sup>かんし</sup>という記号に置き換えます。生年月日を干支に置き換えて作成したものを「宿命」<sup>しゅくめい</sup>といいます。【初年】15回目【宿命の出し方】を参照ください。

どなたの宿命でも「陰占」<sup>いんせん</sup>の宿命<sup>しゅくめい</sup>と「陽占」<sup>ようせん</sup>の宿命<sup>しゅくめい</sup>の2つあります。鑑定側は陰占と陽占2つの宿命を観て、読み解く<sup>よと</sup>ことで、お客様のリクエストに応じます。

「陽占」<sup>ようせん</sup>の宿命<sup>しゅくめい</sup>を「陽占人体図」<sup>ようせんじんたいず</sup>あるいは省略して『人体図』<sup>じんたいず</sup>という。

生年月日を<sup>もと</sup>基にして、「干支」という記号で表した「宿命」には、さまざまな事柄が書かれています。

生年月日を「干支」に変換した「<sup>ねんかんし</sup>年干支」「<sup>げっかんし</sup>月干支」「<sup>にっかんし</sup>日干支」は「<sup>いんせん</sup>陰占の<sup>しゅくめい</sup>宿命」になります。通常「<sup>いんせん</sup>陰占」といいます。

✽ 小泉 進次郎 1981(s56)-4-14

陰占宿命				陽占人体図			大運	
	壬	壬	辛		玉堂星	天恍星	4 辛卯	
子	戊	辰	酉	司祿星	石門星	玉堂星	14 庚寅	
丑	辛	乙		天南星	貫索星	天庫星	24 己丑	
天中殺	丁	癸					34 戊子	
	戊	戊	辛				44 丁亥	
							54 丙戌	

小泉進次郎は 子丑天中殺（ねうしてんちゅうさつ）です。

陰占の宿命（いんせんのしゅくめい）⇒ 通常は陰占（いんせん）という。

陽占人体図（ようせんじんたいず）⇒ 通常は人体図（じんたいず）という。

大運（たいうん）⇒ 宿命が歩む道であり、10年単位で運勢を観る。

このページは、宿命全体の各部位とその呼称を書きました。



＊ 滝川 クリステル 1977(s52)-10-1

陰占宿命				陽占人体図			大運	
	辛	己	丁		車騎星	天極星	3	庚戌
午	卯	酉	巳	禄存星	貫索星	牽牛星	13	辛亥
未			戊	天馳星	龍高星	天禄星	23	壬子
天中殺			庚				33	癸丑
	乙	辛	丙				43	甲寅
							53	乙卯

滝川クリステルは 午未天中殺（うまひつじてんちゅうさつ）です。

小泉進次郎の大運は「4歳運の逆まわり」です。

滝川クリステルの大運は「3歳運の順まわり」です。

(支) ⇒ 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

順番の反対からまわるのが逆まわりです。

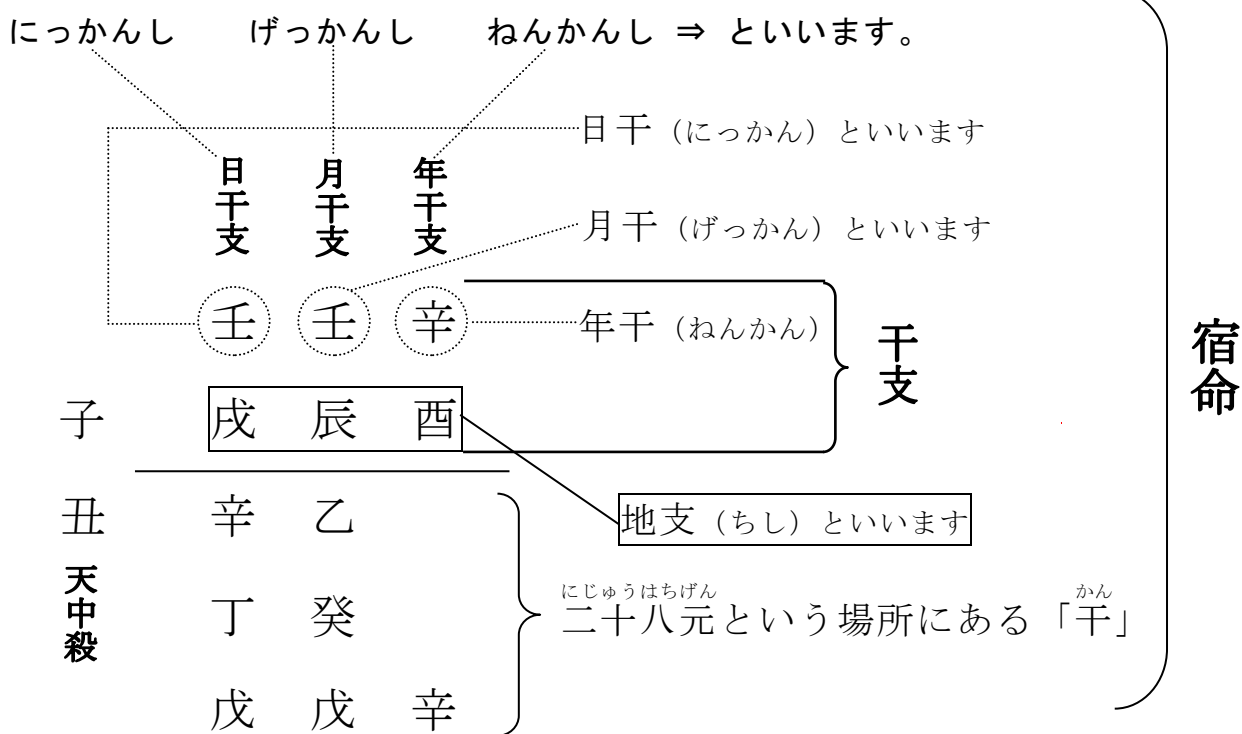
つまり、亥→戌→酉→申と逆にまわっていきます。

(支) ⇒ 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

順番でまわるのが順まわりです。子→丑→寅とまわります。

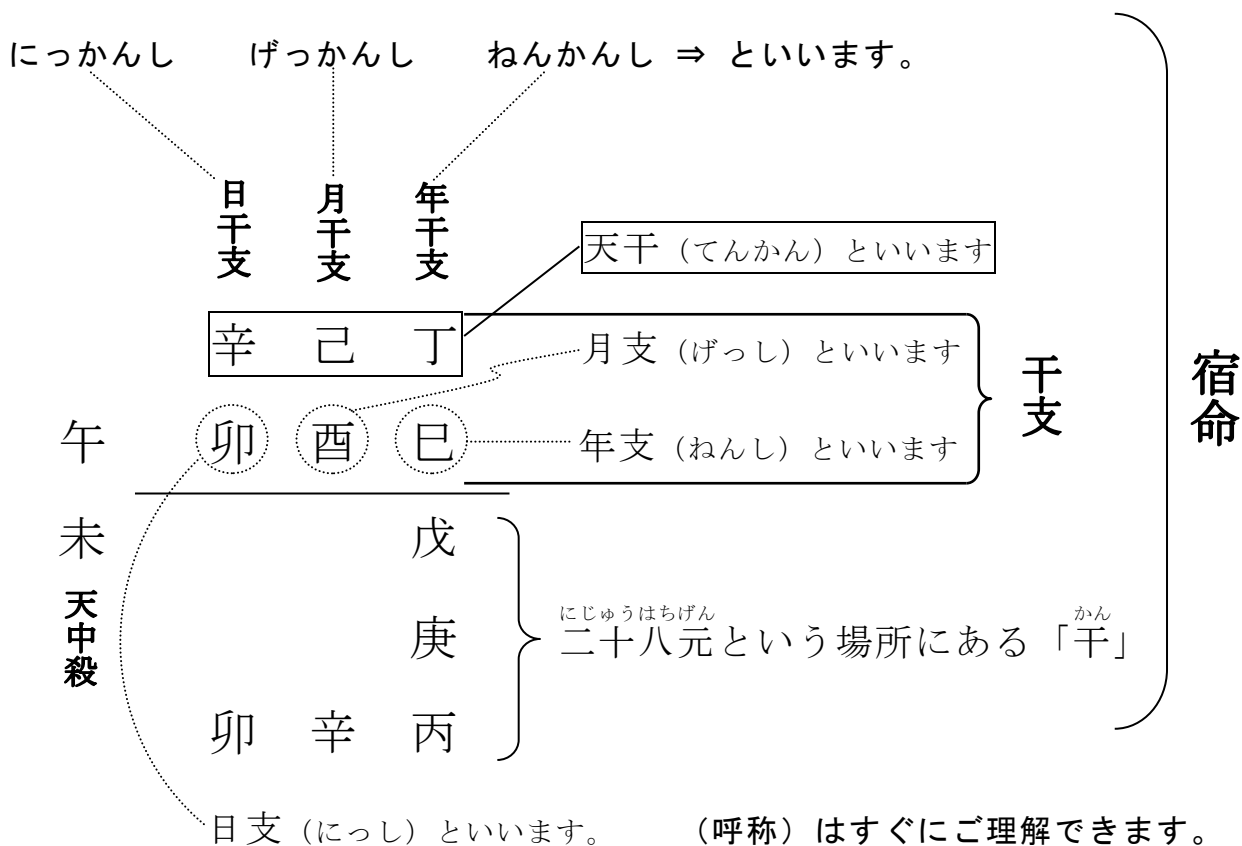
＊ 小泉 進次郎 1981-4-14

宿命（1）小泉進次郎



＊ 滝川 クリステル 1977-10-1

宿命（2）滝川クリステル



☞ **宿命 (1)** **宿命 (2)** **宿命 (3)** この書き方は、読者が理解しやすいうように設けた **道標** です。(1) (2) (3)は順番を意味します。

**宿命 (3) 十干 (じっかん) と十二支**

「干」は、<sup>こう</sup>甲 <sup>おつ</sup>乙 <sup>へい</sup>丙 <sup>てい</sup>丁 <sup>ぼ</sup>戊 <sup>き</sup>己 <sup>こう</sup>庚 <sup>しん</sup>辛 <sup>じん</sup>壬 <sup>き</sup>癸

この記号は 10 個ありまして「十干 じっかん」といいます。

（支）は、<sup>ね</sup>子 <sup>うし</sup>丑 <sup>とら</sup>寅 <sup>う</sup>卯 <sup>たつ</sup>辰 <sup>み</sup>巳 <sup>うま</sup>午 <sup>ひつじ</sup>未 <sup>さる</sup>申 <sup>とり</sup>酉 <sup>いぬ</sup>戌 <sup>い</sup>亥

この記号は 12 個ありまして（十二支 じゅうにし）といいます。

算命学を勉強すると、段階的に占いの技法をつかうようになります。と申しあげました。

生年月日から「宿命」を算出すると、そこにはさまざまなことが書かれています。

⇒ 宿命には〔生まれもった性格〕が書いてあります。

**生まれもった性格（先天的な性格）**

人それぞれですけど、生れつき、気が強い人もいれば、気の弱い人もいます。生れつきおしゃべりな人もいれば

<sup>かもく</sup>寡黙な人、おとなしい人もいます。

生れつき明るい人もいれば、暗い人もいます。

生れつき頭のよい人もいれば、そうでない人もいます。

このように、さまざまな人物の生まれもった性格とか、  
資質ししつが宿命に書かれています。

つまり、陰占（陰占の宿命）と、陽占（陽占人体図）に書いてあります。

## 素質

生れつき運動選手になれる質をもっている人もいますし、  
そのような素質がない人もいます。

生まれつき商売の素質がある人もいるでしょう。

学校の先生に向いている人もいるでしょう。

その人物の『運勢うんせい』も宿命には書いてあります。

⇒ 宿命には『運勢』も書かれています。

さまざまな事象を基にして……運勢を観てゆきます。

・ 親縁がある宿命、親縁がない宿命

〔たとえば〕生まれつき、親と縁の薄い人もいますし、  
親との縁が篤い人もいます。

・ 財縁がある、財縁がない。

生まれつき財縁の強い宿命の人もいれば、財との縁が弱い宿命の人もいます。

・ 結婚運がある、結婚運がない。

生まれつき結婚運が良い。という宿命の人もいれば……  
結婚運が悪い。という宿命の人もいるわけです。

⇒ 全体の「宿命」を観て占うのが算命学です。

生年月日を「干支」に置き換えた「陰占（陰占の宿命）」と  
「人体図（陽占の宿命）」を観て、鑑定依頼者の要望に応じて  
こたえを出してゆく過程が占いになるわけです。

㊦ 授業は段階的に編纂してあります。跳ばさないで進んでくださいね。

そうしますと、おなじ生年月日に生まれた人というのは、性格も、素質も、運勢も、全てがおなじになるのでしょうか？……実際にはそういうことは有り得ません。

たとえば、双子の兄弟であっても、何かしらの違いがあります。

日本人の場合、自分とおなじ生年月日の人は、6千人ほどいるそうです。

自分とおなじ生年月日の人が6千人いたとすれば……

その人たちが〔おなじ性格〕で〔おなじ仕事に就いて〕〔おなじ生き方をして〕〔おなじときに死ぬ〕ということはないのです。

どうしてその違いが出るのか……ということになります。それには「宿命」と「運命」を加えます。

占いは、生年月日の「宿命」に「運命」を重ね合わせてこたえをだします。

**占い「宿命と運命を加えて、こたえをだす」**

占うときは、個人の生年月日を「陰占」と「陽占（人体図）」に置き換えた「宿命」を基盤にするわけです。

まずは——その人が男性なのか、女性なのか、生年月日がおなじでも、性別が違えばまったく違う人生になって行きます。

おなじ宿命でも、時代が違えば……生き方はまるっきり違ってきます。

時代が違えば……といいましたが、その時代というのは、国とか、生まれた環境が異なる、そのように考えていただくとうわかりやすいでしょう。

生年月日がおなじ人は、おなじ「宿命」になりますので、動乱の国に生まれた場合と、平和な国に生まれた場合とでは、その生き方はすべて違うのです。

〔たとえば〕皆さんは……「<sup>いま</sup>現在のご自分の生活は、日本に生まれて、〇〇場所で生活をしているので、このような生活スタイルが出来あがった」といえるでしょう。必ず、その影響はあるはずです。

すでにおわかりのように、男性でおなじ生年月日であれば、おなじ宿命になります。

女性でおなじ生年月日なら、おなじ宿命になります。

生年月日を「干支」という記号に書き換えたのが、宿命ですから、生年月日がおなじなら、おなじ干支になります。つまり、おなじ宿命になります。

⇒ おなじ宿命は、おなじ答えになるのでしょうか……？  
おなじ答えはできません。

〔たとえば〕ここに2人の『女性』がいます。

2人の生年月日はおなじです。

2人の生年月日はおなじですから、「宿命」は全くおなじになります。

1人は、戦争のない日本に生まれて育ちました。

1人は中東のパレスチナに生まれました。

ふんそう  
紛争の地域、パレスチナに生まれて、パレスチナで生活して、いま現在もパレスチナで暮らしています。

宿命は全くおなじであっても、この2人はまったく違う人生になっているはずです。

2人の「宿命」を観ると……2人とも“攻撃的な性格をもっている”と書かれています。

宿命がおなじだからです。



つまり、日本に生まれた人物も、パレスチナに生まれた人物も、2人とも攻撃的な性格なわけです。

攻撃的な性格を備えている女性が、動乱の国パレスチナに生まれたとすれば、攻撃的性格が功を奏<sup>こう</sup>して、パレスチナの英雄になれる。その可能性がります。

なぜなら、動乱・紛争の絶えない国であれば、攻撃的な性格を発揮できるからです。自爆テロは英雄です。

自分の身体に爆薬を巻き付けて、自爆テロを実行するとか……それが、よい、悪い、一切論じていませんよ。

攻撃的な宿命

宿命（4）パレスチナに生まれた女性



動乱の国に生まれた



英雄になるかも知れない

もう1人は日本人で、戦争のない日本という平和な国に生まれたわけです。（戦争がないという意味の平和です）

そうしますと「一方の女性は平和な国に生まれ育った」として考えると、どうなるのでしょうか……？

本来の質、攻撃性の強い質を日本で発揮してしまうと、それが <sup>わざわい</sup>禍 を起こす起爆剤になって、犯罪者になるかも知れません。その可能性もあるわけです。

日本は中東とは違い、紛争の国ではないからです。

攻撃的な宿命

宿命（5）日本に生まれた女性



平和な国に生まれた



犯罪者になるかも知れない

〔たとえば〕 オームの <sup>あさはらしょうこう</sup>麻原 彰 晃 はとても攻撃的な宿命です。

＊ 麻原彰晃 1953-3-2

宿命（6）麻原彰晃

陰占			陽占（人体図）			大運
壬	戊	乙		調舒星	天印星	9 丁丑
子	戌	寅	車騎星	鳳閣星	牽牛星	19 丙子
丑	辛	戊	天南星	車騎星	天胡星	29 乙亥
	丁	丙				39 甲戌
	戊	甲				49 癸酉

彼は日本で生まれ育ったので、犯罪者になったともいえます。麻原の場合は、彼と親との関係、彼が育った家庭環境、彼自身の身体的障害（眼）が大きく影響しています。

彼とおなじ生年月日の人、全て犯罪者になるわけではありません。あのような犯罪者になるには、なにかしらの要因が宿命に加わります。

麻原彰晃とおなじ生年月日の人物が、動乱の国に生まれたとすれば、ことによると……英雄として活躍しているかもしれません。中東は紛争・戦争が絶えない地域です。

このように、おなじ生年月日であっても、平和な国に生まれて育つ場合と、紛争のある国に生まれて育つ場合とでは大きな違いがでてきます。

どちらに生まれたほうがよいのか……宿命によります。

〔平和で豊かな国に生まれたほうが良い〕とは決まっていないのです。

戦争や動乱が頻発<sup>ひんぱつ</sup>する苦しい国に生まれたとか、あるいは、混乱の時代に生まれたとか……宿命によりますが、その時代の成功者として、台頭<sup>たいとう</sup>することもあります。

〔たとえば〕「坂本龍馬が<sup>いま</sup>現在生きていたら……」と、期待感のある言い方をする人もいますが、坂本龍馬は幕末という激動の時代に生きたがゆえに、宿命が活きたのです。龍馬の宿命が活躍できたということです。

母は乳が出ず乳母の乳で育ち、龍馬〔10歳〕のとき母は他界します。その事象と、彼本来の宿命が<sup>から</sup>絡み合っ、龍馬の運勢がうごきます。<sup>かし</sup>下士であった龍馬が、<sup>いくにん</sup>幾人もの地位ある人物たちと<sup>めぐ</sup>巡り会うことができたのは、宿命がうごいたからです。

＊ 坂本龍馬 1836-1-3 【暗殺死去 1867-12-10】 宿命（7）龍馬

陰占	陽占（人体図）	大運
庚 戊 乙	司禄星   天南星	10 丁亥
辰 子 子 未	調舒星   調舒星   玉堂星	20 丙戌
巳 丁	天極星   龍高星   天極星	30 乙酉
乙		40 甲申
癸 癸 己		50 癸未

☞ おなじ生年月日の宿命でも、環境が異なると、大きく人生は変わります。良いほうにも、悪いほうにも……。

おなじ生年月日の宿命でも、環境が異なると人生が変わる。

あるいは、もっとはっきりとした違いが現われるのは、おなじ生年月日でも“親が違う”とその人の人生は大きく変わります。(龍馬の場合は、実母は他界して継母<sup>ままはは</sup>が来ました)

おなじ生年月日の宿命でも、親が違くと人生は大きく変わる。

10 人が 10 人、100 人が 100 人、おなじ生年月日に生まれたとしても、まずは……親の生年月日が違います。

〔たとえば〕成功している親のところに生まれる場合と、そうではない親のところに生まれる場合とでは、宿命によって、伸び方に違いがでます。

あるいは、おなじ生年月日でも、子供を厳<sup>きび</sup>しく育てようとする親のところに生まれる場合と、子供を甘やかして過保護<sup>かほご</sup>に育ててしまう親のところに生まれる場合とでは、子供の宿命の伸び方が異なっていきます。

どちらに適しているのかは、その子供の「宿命」によります。

〔たとえば〕サボテンという植物を育てるときに、水をたくさんやると、根腐れを起こして枯れてしまいます。水をやることをあまり気にしないで、ほったらかして、

おいたほうが、サボテンは立派に育ちます。

おなじ生年月日に生まれても、親がどのような育て方をするかによって、子供の育ちが違ってくるのです。

その人の宿命を観たときに、サボテンのような宿命と書いてあるのに、一生懸命に可愛がって、過保護に育てたとすれば、子供の人生を、途中で枯らしてしまう場合もあります。

親が過保護という水をやり過ぎてしまったためです。

サボテンは過酷ともいえる厳しい自然界で成長します。サボテンのような宿命の人は「あんまり親にかまってもらえない家に生まれて、ほうっておかれる育て方をしたほうが、生き生きと活気にあふれて育つのです。」

そのような場合もあるのです。

☞ その人に兄弟が何人いるのか……その人は何番目に生まれたのかによっても違ってきます。

☞ おなじ生年月日の宿命でも、生まれた順番で違ってくる。

さらに、「運命を加えてゆく」ことで、よりハッキリした

違いが出てきます。

さきほど「結婚は運命です。自分で選べますよ」といいました。

「運命を加える」というのは……結婚相手を自分で選ぶことができるからです。

そうしますと、1番大きな違いがでてくるのは結婚です。

♣ 生年月日がおなじで、おなじ宿命の人でも、結婚する相手の生年月日が違えば、まったく異なる人生になります。

おなじ生年月日の人でも……結婚相手の生年月日は違います。(たとえ、結婚相手の生年月日はおなじでも、結婚相手の親の生年月日はちがうはずです。このことも影響します)

結婚は〔誰と結婚するのか〕によって、まったく異なる結婚生活になってしまうのです。

〔たとえば〕結婚されている方は、想像していただくことで、おわかりになるとおもいます。

現在、一緒に生活している人と結婚しないで、別な人と結婚していたら、自分の人生は大きく変わっていたことでしょう。想像すればある程度わかるかと思います。

いま現在の夫、あるいは妻と結婚しないで、別な人と結婚していたら、生活自体も違ったものになったでしょうし、生まれてきた子供はまったく違うはずです。

この事象は、どういう仕事に就くのか、どこで暮らして行くのかについてもおなじです。生年月日がおなじでも都会で暮らす場合と、田舎で暮らす場合とでは異なります。その宿命の生き方に適合しているのか、いないのかによって、伸び方が違ってくるのです。

きちんとした鑑定をするときは、そこまで考慮したうえで、こたえを出しますので、性別も生年月日もおなじ人であっても、おなじこたえが出るということは、まず、あり得ないのです。

参考・事象 [ことの成り行き]

⇒ **宿命について、知っておいて頂きたいことがあります。**

宿命そのものに [よい] [悪い] はない。ということです。

これは算命学の原則です。

生年月日の宿命そのものに、良いとか、悪いとか、それは一切ない。と算命学は考えています。



〔たとえば〕 性格を考えてみましょう。

明るい性格の人と暗い性格の人がいたとしても、明るい性格の人は良い性格で、暗い性格の人は悪い性格だとは決まっています。

性格はその人の個性ですから「明るい性格」だとしても、その明るい性格が <sup>わざわい</sup>禍 となって、まわりと孤立する。ということもあるのです。

あの人は暗い性格でおとなしいから、ダメとは決まっています。

それはそれで、その人に合った生き方、その人に向いた仕事、その人に適した結婚生活があるわけです。

∞ このことは、自然界もおなじです。

〔たとえば〕 花があります。

この花が悪い花で、あの花がよい花だ、そのようなことはないはずです。

桜の花がよい花で、チューリップが悪い花とはいえませんが、花のなかには、<sup>しゅやく</sup>主役に向いている花もあります。主役を引き立てる、<sup>わきやく</sup>脇役に向いている花、もあります。

〔たとえば〕バラとか、大輪<sup>たいりん</sup>の菊<sup>きく</sup>、とかのように、主役に向いているような花もあります。カスミ草のように主役には向いていないけど、脇役に向いています。

こっちの花が良くて、こっちの花は悪い、そのようなことはいえませんが。

（枯れている、根腐れしている、その話は別です）

人間でいえば……主役に向いている宿命の人であれば、主役の生き方をすればよいのです。

脇役に向いている宿命であれば、脇役の生き方をすればよいのです。

個々の宿命に、合った生き方をすることです。

その人の質にピタリと当て嵌<sup>あ</sup>まる<sup>は</sup>生き方をすることで、宿命は生き生きと、活き活きと光り輝いてくるのです。

⇒ 算命学の勉強では、つぎの言葉が出てきます。

「宿命どうり（道理）に生きる」

「宿命どおり（通り）に生きる」という表現です。

これはどちらも当てはまります。

参考・道理〔物事のそうあるべきこと。当然のすじみち〕

これからの勉強のなかで『生年月日』から宿命を出してこの人物は「宿命どうりに生きたら、こうなりますよ……」とか、「宿命どおりに生きないと、こうなりますよ……」とかそのような言い方がたびたび出てきます。

「宿命どうり（道理）に生きる」

「宿命どおり（通り）に生きる」と、いう言葉が出てきたら、「その宿命に合った生き方をする」という意味だとおもって頂きたいのです。

⇒ 算命学には「もともと人間そのものが、ほかの動物や植物とおなじであり、自然物のひとつである」という考え方が根底にあります。

人間に与えられた宿命も自分で決めたわけではない。としています。（算命学はそのようにいっています）

算命学は『自分がいつ生まれるのか、それは自分の意志で決めたわけではない』という捉え方とらをかたしています。

「宿命」は自然界から与えられたものとしています。ゆえに「宿命どおりに生きなさい」というのは、「自然の法則に沿って生きることになる」と考えているのです。  
♣「宿命どおりに生きる」「宿命のとおりに生きる」これはどちらも、自然の法則に従って生きることを意味します。

〔たとえば〕植物でも、北海道のジャガイモと、鹿児島(鹿)島のサツマ芋とでは、どちらのほうがよい芋とか、悪い芋とか、そういう区別はないわけです。

ただし、それぞれに特徴があるはずですよ。

北海道のジャガイモには、北海道のジャガイモとしての良さがあるし、鹿児島(鹿)島のサツマ芋には、サツマ芋としての良さがあるわけです。

極端に言えば――北海道のジャガイモとして生まれたのに、ジャガイモの勝手に「北海道はイヤだ、東京で暮らしてみたい」とおもうかも知れません。(たとえ話ですよ)

北海道のジャガイモに生まれたのに、おなじ品種が東京で育つたとすれば、成長が悪くなるかも知れませんし、

風味が違う、ともいえるでしょう。

もっと南の地である九州で育ったら、そのジャガイモは途中で枯れてしまうかも知れません。

「北海道に生まれた」というのは、ジャガイモにとっての宿命です。現在は品種改良で北海道とは限りません。

⇒ それは人間もおなじです。

自分に与えられた<sup>ししつ</sup>資質として、生まれつきの性格もあります。生まれつき神経質な性格とか、生まれつき大らかな性格とか、それも自分で選んだ性格ではないのですが、その人が自分の本質に合わない生き方をしているとすれば、それは北海道のジャガイモが、九州で育つようなものです。立ち枯れ<sup>た が</sup>をするとか、人生の過程でよい成果を残せないとか……どちらかになるでしょう。

〔たとえば〕おとなしくて内向的な性格なのに、入社したら営業をやらされたとします。

通常・営業職は、毎日知らない人と会わなければ仕事になりません。そうなると、本人は苦しくてつらいので、相当なストレスが溜まります。それでも無理をして、

努力して、なんとか仕事を続けて成果が上がったとしても、その無理に起因して病気になるかも知れません。

それは北海道生まれのジャガイモが、九州で育つこととおなじです。北海道のジャガイモなら、それに適した気候風土で育てれば、立派なジャガイモに成長します。

基本的に人間もおなじです。

自分の素質とか、性格とか、運勢に適合した生き方をすることが、一番自分らしい生き方なのです。

それが自然の法則に合った生き方であり、自分の役目を果たす生き方になります。

自然の法則に沿って生きることで、自然が個人に与えた役目を果たすことにもなります。

「宿命どおりに生きる」それは自然が与えた役目を果たすことになる。

〔たとえば〕このことを財運ざいうんでいえば……。

宿命で財運を観たときに、その人の財運はソフトボールくらいの大きさだとします。それなのに、その人が自分の宿命に書かれている財運よりも、多くの財・大きな財

〔サッカーボールの大きさ〕を取ってしまうと、その人の宿命どおりではないのです。

また、それより少なくとも〔テニスボール〕でも、宿命どおりではないのです。

それではどうして……多くなったり、少なくなったりするのかといえば、その原因は別にあります。

〔たとえば〕その人の結婚に起因しているとか、親との関係に原因があるとか、さまざまな事象のなかに、その原因が横たわっているのです。

その人物は、このような親に育てられると運勢が伸びなくなるとか、病弱になってしまうとか、あるいは、このような結婚をすれば幸せになるとか、さまざまな事柄が存在しているゆえに、占いに<sup>つな</sup>繋がっていくわけです。

それはすべて、生年月日を「干支」に置き換えた「宿命」を<sup>もと</sup>基にして、それに「運命」を加えて占っていくことになります。

「そのような観方をしていきますよ……」ということを知っておいて頂ければよろしいのです。

【初年】 1 回目【宿命と運命】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 2 回目【三つの<sup>いしずえ</sup>礎】 その(1)<sup>じゅうにし</sup>十二支